

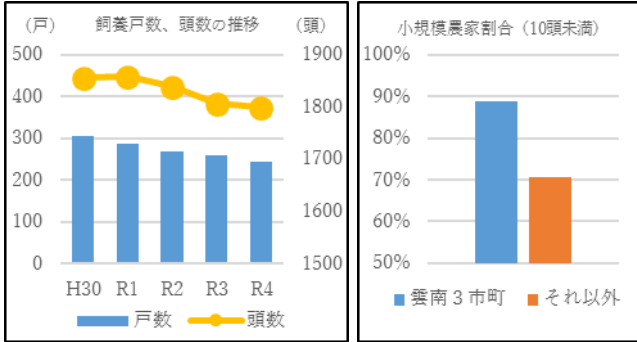
雲南地区10年後の肉用牛産地ビジョン

1. 肉用牛の飼養状況

【肉用牛飼養農家戸数】 244戸 (31.1%)
 うち繁殖経営戸数 230戸 (33.5%)
 【肉用牛飼養頭数】 7,083頭 (21.8%) ※()は県全体
 うち繁殖牛頭数 1,779頭 (16.5%) 占めるシェア

2. 取組の経過及び概要

雲南地区(雲南市、奥出雲町、飯南町)は古くからの畜産地帯であるが、**高齢化が進み、飼養戸数・頭数が減少**。他地域に比べて経営構造の転換が遅れ、頭数減少に歯止めがかからない状況。



その要因は、産地としての目標設定・将来ビジョンが明確でなく、新たな担い手確保の取組も進んでいないことにあることから、早急に**生産者や関係団体が一体となり肉用牛産地ビジョン作成が必要**。

そのため、R3年から**畜産担当者(3市町・JA・県)で検討会を設置**して、課題の洗い出しとその対応策の協議を開始。

R4年には、現状把握と産地の目指す方向性を明らかにするため**生産者アンケートを実施**。

【アンケートから見てきたポイント】

■ **数年間で規模縮小、廃業の意向が3割以上**

■ **産地維持発展に必要な事項**

(回答数が多い順)

- ① **新たな担い手確保**
- ② 後継者育成
- ③ コスト低減

加えて、以下の新たな担い手確保対策に着手。

- (1) **担い手育成農場(来島牧場・中国牧場)と連携し農林大学校生、農林高校生を対象としてインターシップ研修会(19名参加)を開催。**
- (2) **空き牛舎や継承希望農場の掘り起こし、就農希望者を呼び込むための就農パッケージを作成するなど就農支援体制を強化。**

3. 取組の成果

(1) 雲南地区が目指す10年後の姿

畜産担当者検討会で、産地として10年後の雲南地区の子牛生産のあり方を検討して、肉用牛産地ビジョンの骨子(素案)を作り上げ、関係機関で合意形成。

肉用牛ビジョンの骨子

担い手を継続的に受け入れる体制を構築し、**県内一の繁殖産地規模へ回復**

生産者主体で地域の和牛改良(地域内飼養頭数、交配計画等)を実践

開パイや草地、放牧場等を有効利用し、畜産経営の**低コスト生産体制を構築**

新規就農者を呼び込むために「**奥出雲和牛**」の知名度向上と積極的な活用

(2) 新たな担い手確保に向けた動き

- ① 農林高校生等の雲南地域畜産業への認識向上。農場の雰囲気、経営方針等を見聞きすることで魅力を感じ、学生から将来就職したいとの声もあり。
- ② 新規就農者の受入体制づくりが始動。**リース牛舎整備に向けた候補地検討等**の新たな動き。



代表者から一言

これまで雲南地域では将来ビジョンが不明確で、振興計画に具体性がなかった。今後の和牛改良、担い手確保等を考える上でビジョン作成は不可欠。

帯刀一美 雲南市和牛改良組合 組合長

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 生産者の意見聴取及びビジョンへの反映
- (2) ビジョン実現に向けた施策の構築
- (3) 生産者の能動的活動を誘導、支援
- (4) 新規就農希望者の掘り起こしと就農候補地確保